



高山・デンバー姉妹都市提携60周年オンライン記念式典 ～両市の絆はコロナ禍でも揺るがず～

岐阜県高山市海外戦略課 三木 愛可

高山市の海外の姉妹友好都市

高山市は海外の5都市・地域と姉妹友好都市提携を締結し、様々な分野で交流をしています。

姉妹都市であるアメリカ合衆国コロラド州デンバー市、友好都市である中国雲南省麗江市、昆明市、ルーマニア・シビウ市、ペルー共和国ウルバンバ郡。その中でもデンバー市とは長きに渡る交流を続け、2020年、提携60周年の節目を迎えました。

デンバー市との姉妹都市提携締結の経緯

デンバー市は、アメリカ合衆国コロラド州の州都であり、ロッキー山脈の裾野に広がる人口62万人の大都市です。ハイテク工業地域や世界最大級のデンバー国際空港があることなどから、アメリカ中西部の中心都市として栄えています。

1960年4月、万国郵便会議に出席したデンバー市代表から名古屋郵政局に姉妹都市の紹介依頼があり、高山市に勧めがあったことから、同年7月29日に姉妹都市提携を締結しました。

これまでの交流

両市はこれまで、教育、文化、音楽、経済などさまざまな分野で交流を行ってきました。公式訪問団の相互派遣、高校生相互派遣事業、市民海外派遣事業、医師派遣、合唱団や吹奏楽団の派遣等を行い、これまでに少なくとも延べ2,100人以上の市民が両市を往来しています。

姉妹都市提携60周年記念事業

1964年に高山市よりデンバー市に実物の3分の2の大きさの高山祭屋台模型を寄贈しました。その屋台模型を、2019年に高山工業高等学校の生徒の協力を得て修繕し、2020年にデンバー市で開催されるサクラフェスティバルにて曳揃えを行う予定でした。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により残念ながら中止となり、公式訪問団のデンバー市渡航も断念することとしました。



1964年 デンバー市に 2019年 デンバー市にて修繕して屋台模型曳揃えの様子 た屋台模型

オンライン記念式典の実施決定と事前準備

当初計画していた事業は中止となりましたが、何らかの形で記念事業を行い両市の絆をさらに深めたいとの強い思いから、デンバー市の姉妹都市担当部署と相談をした結果、オンラインにて式典を開催する運びとなりました。その事前準備に際しては、初めての取り組みということもあり、さまざまな課題に直面しました。

まず、開催時間についての調整が必要でした。デンバー市との時差が15時間あることから、双方実施可能な時間について協議を重ね、日本時間の9時から開催することで合意しました。

オンライン会議システムは、Microsoft Teamsを使用することとしました。事前にデンバー市とオンラインで打ち合わせをしたところ、1秒程度のタイムラグが発生したことから通訳のタイミングを考慮する必要があったり、複数台で実施した際に音声をマイクが再び収録することから、ハウリングを防ぐ手段を講じる必要があるなどの対応に追われました。また、カメラを発言者等に切り替える作業にはカメラワークの技術を要したため、最終的には、それらの機材の設備対応については、地元のケーブルテレビに専門的な見地から協力を仰ぎました。

そのほか、式典の次第やタイムラグを考慮した時間配分、新型コロナウイルス感染症に考慮し、参加者を最少人数に抑えるための調整を行う等、さまざまな状況を想定して準備を進めました。

オンライン記念式典当日の状況

式典の前日には、機材の設置や音声テストなどを入念に行いました。式典当日は、予定時刻通り日本時間9時から高山市民吹奏楽団の演奏動画を皮切りにスタートし、出席者紹介、両市・両市議会あいさつの後、姉妹都市として今後も

交流を続けていくことなどを確認する共同宣言を読み上げ、乾杯、デンバームニンシパルバンドの演奏動画、最後は高山工業高等学校の生徒によるあいさつで幕を閉じました。全体で60分程度の式典でした。



オンライン記念式典の様子（高山市）



オンライン記念式典の様子（デンバー市）

～式典次第～

1. 高山市民吹奏楽団演奏（ビデオ）
2. 出席者紹介
3. 両市あいさつ
4. 両市市議会あいさつ
5. 姉妹都市提携60周年 共同宣言読み上げ
6. 来賓あいさつ
 - ・在デンバー日本国総領事館総領事
 - ・在アメリカ日本国大使館特命全権大使（ビデオ）
 - ・アメリカ合衆国連邦政府下院議会下院議員（ビデオ）
7. 乾杯
8. デンバームニンシパルバンド演奏（ビデオ）
9. 高山工業高等学校代表生徒あいさつ

オンライン記念式典の振り返り

式典の振り返りとして、成功した点は通信が途中で一度も途切れることがなかったこと、YouTubeの生配信により高山市とデンバー市両方の様子をあわせて流すことができたことです。これは事前の準備段階での入念な

確認が功を奏しました。

残念ながらうまくいかなかった点としては、事前に収録した高山市民吹奏楽団とデンバームニンシパルバンドの演奏映像、ビデオメッセージなどの再生にあたり、デンバー市側で画面共有した際に高山市側で音声が届かなかったことです。

そのほか、マイクの設置については、高山市側にはスピーチ用の演台に1台、通訳用に1台、会場全体用に1台の計3台設置しましたが、全体的に音声が届いてしまい、聞き取りづらい部分がありました。会場のモニターについては、参加者用を1台、報道機関用を1台用意しました。また、市長の背後のモニターでは、これまでの両市の交流写真をスライドショーで流し、会場にいる人たちの一体感を醸し出す工夫を演出しました。

なお、式典当日は、参加者を最小限に抑えての実施となりましたが、市の公式YouTubeにて式典の様子を生配信することで、多くの方に式典の様子をご覧いただきました。現在も市の公式YouTubeにて式典の動画を公開しています。



公式YouTubeによる公開動画



<https://youtu.be/JLgRsUuflQs>

オンライン記念式典を終えて

提携60年という大きな節目の年に、新型コロナウイルス感染症の脅威でさまざまな事業のあり方が大きく変わるとは予想もしていませんでした。長い交流の歴史の中でオンラインでの式典は初めての試みであり、試行錯誤しながらの実施でしたが、新たな交流の在り方を見出すことができたことは大きな収穫でした。また、式典をきっかけに、両市長による会談、学校や市民交流団体同士の交流がオンラインで実現し、新たな可能性を発見することができました。

とはいえ、やはり交流は実際に顔を合わせてこそ活かされるものですので、交流都市の皆様にお会いできる日々が戻ることを願いつつ、今できる交流方法を模索しながらデンバー市をはじめとする姉妹友好都市との絆をより深めていきたいと考えています。